

「当院における初回前十字靭帯再建術時に施行した半月板縫合術の治療成績」

矢頭 透¹⁾ 中谷 拓也¹⁾ 末吉 哲郎¹⁾

湯朝 友基²⁾ 張 敬範²⁾ 江本 玄²⁾

1) 江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2) 江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

【はじめに】

近年、前十字靭帯（以下：ACL）損傷に合併した半月板損傷に対して、可能な限り半月板機能を温存することが重要であると認識されている。

ACL再建術（以下：ACLR）時に半月板縫合術を施行しても、再鏡視時に半月板縫合部の再処置を施す症例が存在します。今回、再鏡視時、スポーツと半月板縫合部との影響を調査した。

【仮説】

スポーツ活動実施群は、スポーツ未実施群に比べて再損傷例は多い傾向にある。

【対象】

2006年5月から2015年12月までに初回ACLRを施行した1053例中、296例に半月板縫合術を施行。再鏡視が可能であった164例を対象。抜釘前に再鏡視を行った症例は除外。

男性62例、女性102例、平均年齢23.5歳。

【方法】

分類は内側半月板縫合群（以下：M群 67例）、外側半月板縫合群（以下：L群 68例）、両側半月板縫合群（以下：B群 29例）。更にB群は内側半月板再損傷群（以下：BM群）、外側半月板再損傷群（以下：BL群）、両側半月板再損傷群（以下：BB群）とした。

Odds比にて統計学的処理を行った。

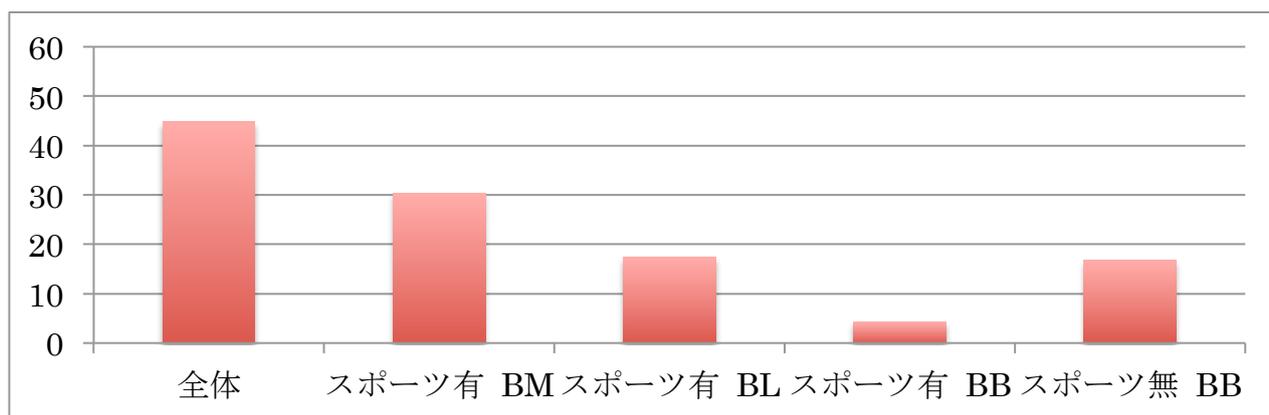
【結果】

全体の半月板癒合率と再損傷率の割合は、癒合率は78.0%、再損傷率は22.0%。癒合例は128例、再損傷例は36例。

スポーツ活動の有無での割合は、有り群107例、無し群57例。

	Odds ratio	P Value
全体	3.31	0.01
M群	3.23	0.06
L群	1.25	0.86
B群	5.45	0.15

B群全体の癒合率と再損傷率の割合は、癒合例は16例、BM群は7例、BL群は4例、BB群は2例再損傷であった。



BM群の再損傷率が高い傾向。

【考察】

ACLR時半月板縫合術後の再損傷率は全体**22%**。Robertらの研究では6年間のフォローアップでは再損傷率は16%、Tomanらは、2年間のフォローアップでは再損傷率は2%と報告。先行研究と比較すると、再損傷率は高い傾向。しかし、Robert、Tomanのいずれも抜釘時に再鏡視したわけではなく、半月板症状があり、再手術を施行した症例を再損傷例としていた。

Ronaldらのsecond look時の再損傷率M群31%報告。先行研究と当院では同様の結果。半月板損傷があるからといって、必ずしも、半月板症状があるとは限らないと考える。

多くの症例がスポーツ活動を行っており、スポーツ活動が半月板縫合術後の再損傷に関与する一要因。そのため、スポーツ活動時、半月板再損傷に対する説明や啓蒙が必要であると考え。

中田ら、ACLRによる膝安定性が不良であれば、半月板縫合術後の成績は不良と報告。今後、脛骨前方移動量を含めた調査が必要ではないかと考える。

【本研究の課題】

- ・ 半月板癒合は半月板損傷が新鮮例又は、陳旧例での調査を行っていない
- ・ 骨孔の位置による違い
- ・ 術後の膝関節屈曲角度、荷重などの制限期間の違い
- ・ 筋力、移植腱を含めた調査を行っていない
- ・ スポーツの種類、頻度の調査を行っていない

【まとめ】

- ACLR 時に施行した半月板縫合術の治療成績の調査を行った
- 仮説と同様、半月板再損傷例はスポーツ活動実施群に多い結果
- スポーツ活動の実施は半月板再損傷に影響があるのではないかと考える

